

本を選ぶ

- 「ぼくらの宇宙旅行」と人類の課題
- 『10分後に自分の世界が広がる手紙』に込めた思い
- 一冊の本との出会い
- DMかたろぐ

2024年(令和6年)4月10日

●発行/ライブラリー・アド・サービス

〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL:03-6908-4643

<https://www.las2005.com>

●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

「ぼくらの宇宙旅行」と人類の課題

青本 格

我が家には畳3枚ほどの屋根裏部屋がある。はしごを下ろして登るとそこは「思い出の世界」である。古いアルバムや子どもたちが小学生の時に作った工作や遊んだおもちゃがあり、壁には絵画、習字がはってある。他に私が小学生の時に読んだ本が数冊ある。『アンクルトム物語』『ロビンソン漂流記』『巖窟王』（講談社）は60年以上前の小学校4～6年の頃に読んだ本で、実に懐かしい。

ひときわ汚れ、ボロボロの本は『ぼくらの宇宙旅行』（原田三夫 著/講談社/昭和33年発行）である。「宇宙旅行はもう夢ではなくなりました」「人工衛星がまわりだして、いよいよ第一歩がふみだされました」という文章ではじまり、「宇宙案内」では月、太陽、太陽系から大宇宙までが紹介される。ロケットのしくみが説明され、「月世界の探検」「火星旅行の計画」「ふみだす宇宙旅行の第一歩」などがわかりやすい文章と図で解説されている。11歳（小学校5年）の私はむちゅうになり、この本を読み進んだ。何度も読み直した。今になってみると、かなり高度な物理学の内容もあり、当時の私には理解できないことも多くあっただろう。でもワクワクしながら読み進んだ感覚は今でも覚えている。

それ以来、図書館に行って宇宙関連の本を何冊も借りて読み、やがて「将来は宇宙のことを研究して、宇宙飛行士になりたい」と思うようになった。

それは旧ソ連の人工衛星スプートニク1号が打ち上げられた1957年の3年後のことであり、ルナ9号が月面着陸に成功する1966年の6年前だった。アメリカがアポロ11号で宇宙飛行士を月に送り込んだ1969年に私は大学に入学した。私は「宇宙飛行士の夢」をひそかに持ち続けて、大学では物理か地球物理学を学びたいと思っていたが、結果的に地質学を学ぶことになり、「科学のおもしろさを伝えたい」と中学校の理科の教師になった。

人類が月に初めて降りてから55年が過ぎた今年1月に日本のJAXAが打ち上げた探査機SLIMが月面着陸に成功して話題になった。NASAはアポロ計画以来の有人月着陸と持続的な月探査を民間企業や日本、欧州などの協力も得て行なうアルテミス計画を発表している。実業家のイーロンマスク氏は月面基地を足掛かりに、火星への移住を視野に入れた壮大な構想を持っているという。実現にはとんでもなく困難な問題をいくつも解決しなければならないし、想像を絶する膨大な費用と歳月を要することは確実だ。

人類は700万年前にアフリカの草原で誕生して以来、さまざまな挑戦をしながら住む場所を広げて、今やこの地球上に80億人を数えるまでになった。その人類が地球でない他の惑星に向かうことは必然なのだろうか。どんな意味があるのだろうか。

人類が引き起こした環境問題や人と人が殺し合う戦争が頻発する地球で、解決が迫られている課題は重大で多い。幼い私があこがれ、夢みた「宇宙旅行」への挑戦は、貧困や格差、環境破壊や温暖化などの地球の課題の解決に役立つものであってほしいものだ。（はしもと いたる：かがく教育研究所）

『10分後に自分の世界が広がる手紙』に込めた思い

上原 剛典

*写真左：筆者

『学校がもっと好きになるシリーズ』刊行について

東洋館出版社は創業以来、教員向け教育図書を出版しており、「熱意はきつと子どもに届く。」をキャッチフレーズに活動しております。板書の書き方、学級運営の方法、教科指導など教員のための実用書を刊行しております。いわば教員を通じて児童生徒を支援してきたわけです。そんな中、児童生徒に直接手にとってもらえる『学校がもっと好きになるシリーズ』を2018年より刊行しました。シリーズにこめた思いの中心にあるのは、どの子にも学校という場の魅力を伝えたいということです。自分が所属する学校に限らず、近い年齢の子どもたちが集って学ぶ場としての学校の魅力です。不登校として数字に上がっているかどうか関係なく、学校で息苦しい思いをしている子どもたちにも、学校という場への気持ちの変化のきっかけになるような本を出していきたいと考えています。

佐藤慧さんとの出会い

今回ご紹介する佐藤慧著『10分後に自分の世界が広がる手紙』(全3巻)は『学校がもっと好きになるシリーズ』第3弾。それまでは小学校低学年向けの作品を刊行していたのですが、ここに来て初めて中学生向けの読み物を刊行することになりました。

著者の佐藤慧さんに最初にお会いしたのは、児

童文芸家協会の授賞式でした。児童文芸ノンフィクション文学賞特別賞を受賞した『しあわせの牛乳』(ポプラ社刊)の著者として登壇した佐藤さん。中学校時代は不登校でほとんど登校していないということを爽やかに語る姿に衝撃を受け、すぐさま懇親会で編集担当のYさんと一緒に挨拶させて頂きました。私自身が身内に不登校経験者を抱えていて、その大変さを少しは理解していたので、恥ずかしながら前のめりな挨拶だったと思います。

遂に制作スタート

打ち合わせを重ねてゆく中で、不登校は学校に行けていないという事実よりも、自信を無くし将来に対し希望が持たなくなってしまうことが本当に残念なこと、という話が出ました。ここから大人になるということは様々な選択肢が広がっていて、可能性に満ちているという本書で伝えたい軸ができました。そして当時不登校だった頃の自分に語りかけるように書いていこうと決まりました。本シリーズでは、不登校、家族との相次ぐ死別、紛争地・災害地での取材を通して感じた佐藤さんの想いを、一話10分で読めるアンソロジー形式で収録。巻頭には実際に佐藤さんが撮影した写真を掲載し、状況がイメージしやすいような作りをしました。過酷な経験を経てもなお世界は美しいと言いつける佐藤さん。経験に裏打ちされた言葉には



力があり、胸を打たれました。遠い海外の話でも、佐藤さんの視点で語られる内容は自分事として感情移入できるのです。

佐藤さんとお会いして感じることは、常にフラットで前向きなテンションだということです。こちらのお話を丁寧に先入観なしに聞いてくださる。アイデアを提案すると、できないという返事はまずなく、それならもっとこうすると面白いと、アイデアにアイデアを重ねてくる。常に相手への配慮があり言葉に嘘がない。

佐藤さんはフォトジャーナリストとして難民キャンプや紛争地で取材をしています。その場所は日本では想像もつかないほどの過酷な環境であるにも関わらず、被写体の表情は生き生きしている。これはひとえに佐藤さんの人に接する姿勢の賜物だと思います。

遂に刊行

本シリーズは2021年の3月というコロナ禍で真ん中に刊行されました。学校図書館向けの展示会は軒並み中止となり図書館関係者とお会いする機会が激減してしまいました。そんな中でも僅かに開催されている学校図書館向け展示会を見つけては、会場のサポートを行いました。

コロナ禍でも感染対策をして自己責任で展示会に来場される先生方は本当に熱心。話を聞くと自己肯定感の低い子どもに将来への希望を持ってほしいという先生方の想いは強く、本シリーズに対するお褒めの言葉を沢山頂戴しました。その場で涙を流しながら読んでいた先生もいらっしました。子どももそうだが、大人が読んででも考えさせられる、なんで教員になったのか思い出した、絶対に図書館に入れなければならない、などなど沢山の反響を頂きました。読者の皆様の支持もあり、2022年9月には児童ペン賞ノンフィクション賞を受賞しました。

世界が広がるということ

『勉強なんてしたくない君へ』の一遍、『君は戦争を止められる』にシリアの難民キャンプについ

て印象的なことが書かれています。

とてもきびしい環境ですが、それでも大人たちは、少しでも余裕ができると、キャンプに「学校」をつくります。(中略) それでも先生たちは、「教育こそが、戦争を止めるために必要なものだ」と、毎日授業を続けるのです。(『勉強なんてしたくない君へ』66頁)

勉強することは将来の選択肢を増やして自分の未来を形成すると同時に、世界の未来をも変える力があると言うのです。ここに教育の本質が表れているように感じました。勉強の反対は戦争、未来を変える力があるのは、自分たちであり子どもたちであるという意識。佐藤さんの文章を読んでいると自らの視野の狭さに気づくと同時に、自分の力を信じてみようと思えてきて力がみなぎる。多くの子どもたちにそんな体験をしてほしいと願います。

企画の源は図書館関係者の意見

私は営業部に所属しているので、普段は図書館向け図書展示会のサポートや書店への販売促進の仕事をしています。編集部のYさんと新しい企画の話をするときは、いつも図書館関係者の皆様から頂いた意見を参考にしています。ある学校図書館担当の方が次のようにおっしゃっていました。「子どもに読ませたい本と、子ども自身が読みたいと思う本は一致しない事もある。しかし図書館は子どもにとって自由で開かれた場所。教員側の都合はあるが、子どもの要望にも寄り添い、居心地の良い空間にした。図書館の主役は本を借りに来る子どもたちです。」子どもへの目線の温かさを感じるコメントに我に返る思いでした。これからも子どもたちが学校を少しでも好きになるきっかけとなる本に関わってゆきたいと、改めて思い直した次第です。今年も学校図書館の展示会で皆様とお会いできるのを楽しみにしています。(うえはら たかのり:東洋館出版社)

[10分後に自分の世界が変わる手紙シリーズ \(全3巻\)](#)

[『毎日がつまらない君へ』](#) [『君はどんな大人になりたい?』](#) [『勉強なんてしたくない君へ』](#)



一冊の本との出会い

朝日 仁美

一生のうち 何冊の本に出会えるか？ 最近そんなことを考えます。その数は人それぞれだし、読むジャンルのさまざまだと思います。

私は新潟県糸魚川市で学校司書をしています。主に小学校図書館で仕事をしていますが、巡回業務として月に数回、中学校へも勤務しています。学校図書館という場所から、小・中学校と合わせて9年間の関りを持つ子どもたちもいます。このかかわりの中で、本や図書館の価値が少しでも分かってもらえるように日々奮闘しています。

小学校の頃は学校図書館を利用していた子どもたちが中学校になると利用なくなる現状を近年、目の当たりにします。多くの生徒たちはいろいろなことに忙しく、本を読まないとも耳にします。子どもたちの周りにいる大人からは「どうしたら、本を読むようになるか？」と相談されることもしばしばあります。いろいろな生徒がいる様に、読まない理由もそれぞれだと思います。

学校図書館での本との出会いは館内を閲覧し、自分でみつけることが出来る生徒もいますが、「読みたい本が見つからない」と言ってくる生徒もいます。司書である私にとってチャンス到来です。たくさん本を読んでいて、次に読む本が見つからない子もいれば、普段は全く本を読まないのに、私をみつけて話しかけてくる子もいます。時間が許す限りその子たちとやり取りして「今の気持ちに合う一冊」を一緒に探そうと努めています。話題の小説から選んだり、小説ではなく、今一番関心があることが書いてあるものが載っている本を探したりと、その時々でその子と少し話をして、今までどんな読書経験があるのか確認してから渡します。この時間は生徒にとっても私にとっても貴重な時間です。なぜならばその手渡した一冊がもしかしたらその子の世界を広げるかもしれないし、私にとってはその蓄積が司書としての財産となっていくからです。

読後の感想をあれこれと言ってくれる子もいま

すが、「読まなかった」と正直に言ってくる子もいます。それでもいいと私は思っています。読まなかったのか読めなかったのかは、わかりませんが、その本を手にすることができたのだから。本を通じて司書とやり取りができた思い出は手渡された本と同じぐらい大事な時間になっているような気がします。大人になった時、そんな学校司書がいたことを何かの拍子に思い出してもらえたら嬉しいです。本を探すためのやり取りは、時には世間話を交え、時にはどうしてその本を読みたいのかという話題にも広がります。そんな話ができる人が学校図書館にはいると思ってほしいのです。毎日学校図書館に司書がいなくてもいいかもしれませんが、先生とも保護者とも違う立場の大人があなたの傍にいてほしいです。本との出会いは人との出会い…そういうことも知ってほしいと思っています。

本との出会いの場は図書館だけではなく、応援しているタレントが出演する映画やドラマを見て、その原作小説や漫画を読んでみたくなることもあります。映像作品を何度も見るのと同じように、何度も読み返す本に出会えるかもしれません。面白いと思ったら、同じ作者の違う本や時代背景が似ている小説を探して読むかもしれません。本の世界への入り口は、自分の生活のあらゆるものが入り口となると知れば、どんどん読んでみたい本が見つかるはずです。もちろん紙の本で読まなくても、電子書籍でもいいと思います。自分の好きな作品をみつけて、その世界観を深堀してみることは、きっと楽しいと思います。

何かのついでに書店に行ってみるのも、本と会う方法のひとつです。

書店には今の日本で流行っているものの情報をたくさん知ることができる場所でもあります。そして、これから話題になりそうなこともいち早く発見できる場所でもあります。目に留まったものを手にして

みると自分では気付いていない関心事を気付けるかもしれません。

子どもの頃に読んだものとは違う絵本に出会うかもしれません。絵本は子どもが読むものと思っている人もいますが、ぜひ大人になってからも絵本を読んでほしいです。環境問題や気候変動をテーマにした作品や女性科学者の伝記なども絵本として出版されています。難しい内容でも絵本で読むと分かりやすいこともあります。また悩みを抱えていたり、心が疲れていたりする時に絵本を読むと、思わずクスッと笑ってしまうことや心癒されることもあります。中学生もどんどん絵本を手にしてほしいと思っています。

「誰の傍にも本はあります。困った時や悩んだ時に、本を開いてみてください。きっと解決のヒントが見つかるはずです。」この文章は毎年小学校を卒業する6年生に贈るものです。こちらを文集などに学校司書という肩書きと共に載せてもらっています。何でもインターネットで検索できる時代ですが、「本」や「図書館」というものの存在を忘れないでほしいという願いを込めて贈っています。一生のうち何冊ではなく、どんな本に出会えたかが重要なのです。一冊でも大事な本に出会えたら、そこから広がる世界は無限であることを知ってほしいです。

(あさひ ひとみ：糸魚川市学校司書 / 絵本専門士)

DMがたろく

世界11カ国で刊行 読んで楽しいビジュアルブック!

世界文字の大図鑑

～謎と秘密～ [監修] 青柳正規

約5500年前に文字は発明された。世界各地で生まれた最初の文字とは? 文字の考案者とは? 言語・社会・歴史・文化を背景に、多様な文字の世界を描く!

200以上の文字が登場!



定価3190円

ISBN978-4-86706-045-2



シリーズ続刊

世界お金の図鑑 ～謎と秘密～

*2024 夏頃刊行 予価3190円 ISBN978-4-86706-050-6

西村書店

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-4-6
☎ 03-3239-7671 Fax.03-3239-7622 (税込価格)

源氏物語を知る事典 新装版

装丁に漫画家 山田南平さんの 装画を採用
西沢正史 編
定価 3,300円 (本体 3,000円 + 税)
ISBN 978-4-490-10938-2



不朽の大作「源氏物語」のストーリー展開、人物関係、時代背景、作者像、文学作品としての影響や関係資料などまるごと理解出来る事典。探求学習・レポート作成にも役立つ1冊。

渋沢栄一を知る事典

公益財団法人 渋沢栄一記念財団 編
2024年 新一万円札の肖像画に
定価 3,080円 (本体 2,800円 + 税)
ISBN 978-4-490-10824-8



多くの企業・団体の設立・経営に関わり日本資本主義の父といわれる渋沢栄一。社会事業や民間外交にも尽くした人物像と業績をコンパクトにまとめた実業家 渋沢栄一を知る最適な入門書。

株式会社 東京堂出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-17
TEL 03-3293-3741 FAX 03-3293-3746

日本で初めてのゴスペルの教科書!

みんなでゴスペル!

学校で、サークルで、お家で

山本 愛 / 編著 ●A4判 / 80頁 / 定価：本体 2400円 + 税



記録媒体もない時代に人から人へ歌い継がれてきた古い時代のシンプルで力強い歌。その中から8曲を選び楽譜として収録しました。すぐに覚えてみんなで歌え、歴史も学べる入門書。子ども達と著者の長年のゴスペル体験から生まれた本です。



※お手本と伴奏のCD音源付き。

朔北社

〒191-0041 東京都日野市南平 5-28-1-1F
TEL042-506-5350 <http://www.sakuhokusha.co.jp>



みちねこサイト

学校司書のみちねこが運営している学校図書館情報のプラットフォームです。月に一回配信している「みちねこラジオ」の番組情報と、月一回開催している非正規の学校司書の話



を聞く「みちねこサロン」の情報を掲載しています。社会教育士として行っている子どもの居場所に本を置く活動も紹介していきます。サイトは常に更新しています。ぜひ、チェックしてください。

みちねこサイトみちねこサイトみちねこサイトみちねこサイトみちねこサイト

哲学ってなにだろう?

DK社/編
山本貴光/訳

哲学の基本がわかる図鑑

10歳から大人まで楽しめる
哲学の入門書

古代ギリシア哲学から
21世紀の現代思想まで、
イラストでわかりやすく解説。



定価：2420円(税込)
978-4-487-81663-7

◀詳しい内容はこちらから

東京書籍

かがくるBOOK 科学漫画

サバイバルシリーズ

〈2024年 新刊セット〉

テレビアニメ化決定!

新作「水書」「下水道1・2」「巨大地震」と、改訂版「昆虫世界1~3」「恐竜世界1・2」の新刊セット。学術的に古くなったコラムを最新情報に書き換え。更新をお願いします。



文：洪在徹ほか／絵：韓賢東／全9巻
揃定価11,880円(揃本体10,800円+税10%)
NDC369ほか／B5変型判／平均190頁／ISBN978-4-02-332089-5

朝日新聞出版

ロッチの二人が悩める人々を救う
NHKEテレの人気相談番組が書籍化

『ロッチと子羊』で学ぶ 中高生のための 哲学入門

君のお悩み、
哲学プラクティスで解決します。



小川仁志/
『ロッチと子羊』NHK制作班著

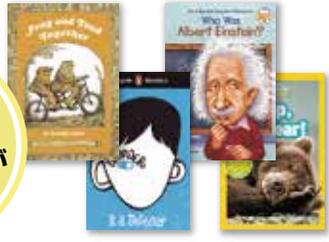
A5判美装カバー/128頁/1760円

ミニルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL075-581-0296 ※価格税込

株式会社 三善

2024年度 英語名作ライブラリー

洋書絵本
セット紹介の
WEBサイトが
オープン!



eigo-meisaku.com

英語名作ライブラリー

Miyoshi 〒167-0032 東京都杉並区天沼2-2-3
TEL : 03-3398-9163 FAX : 03-3398-9170

世界300万部突破のベストセラー 世界26か国の

『マップス』著者による食べものの本!!

世界の国から いただきます!

A&D ミジェリンスキ文・絵
ナタリア・バラノフスカ文
岡根谷実里 日本語版監修



世界の国々ではどんなものを食べていて、背景にはどんな歴史があるの? 食文化の特徴を詳しく紹介する大判絵本!

38cm●定価4180円(税込)

徳間書店 〒141-8202 東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア
TEL.049-293-5521(受付センター) https://www.tokuma.jp/kodomonohon/

すずき出版 全編X線写真で構成した
画期的な2巻セット!

小・低学年~



透かして学ぼう

透けて見えたなら...
オッ、
こんなだったのか!

透かして学ぼう全2巻

X線ではじめてのステータ!

①生き物の編(監修:中出哲也) ②モノ編

30.3×21.5cm
各71頁・上製

揃税込9,900円(各巻税込4,950円) ISBN978-4-7902-3427-2

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-3-1 岩波書店アネックスビル5F
☎03-6272-8003 FAX03-6272-8016 https://www.suzuki-syuppan.com/